

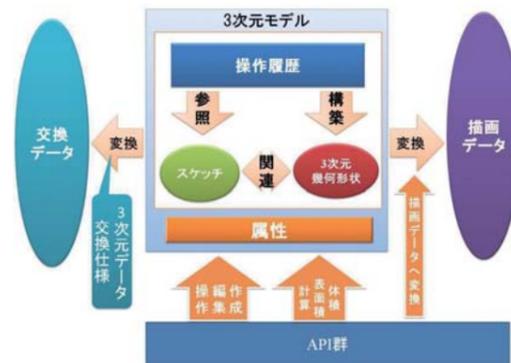
Topics ■トピックス [学内情報]

関西大学
カイザー・
プロジェクト

建設業界の効率化に貢献する汎用的な3次元CADエンジンを開発



3次元CADエンジンの全体像



総合情報学部の田中成典教授を中心に、三菱電機株式会社、富士電機株式会社、日本工営株式会社、株式会社建設技術研究所など民間企業9社が参加し、2008年から産学連携で研究活動を行ってきた「関西大学カイザー・プロジェクト(社会基盤情報に関する社会連携プロジェクト)」が、建設業界全体で汎用的に利用できる3次元CADエンジンを開発した。



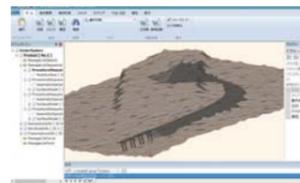
総合情報学部
田中成典教授

現在、国内で使用されている3次元CADは海外製が主流だが、海外製はライセンス料が高いなどの難点もあり、日本の建設業界の文化や実情を反映し、かつ低価格の製品が求められて

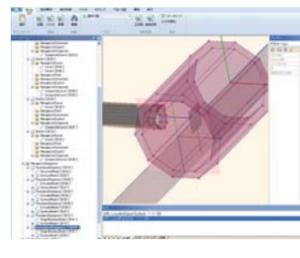
いた。このような要望に応えるべく開発された3次元CADのコア・エンジンによって、多くの国内のCADベンダーが、低コストで3次元CADの開発にチャレンジできる環境をつくり出すことができる。国産の3次元CADが普及することで、これまで不可能とされてきた建設前の仮組み立てが、3Dコンピュータグラフィックスで可能になり、複雑な地形、河川の堤防モデルの立体的再現や、施工工程のシミュレーションなどで大幅な効率化、低コスト化が期待される。また、地上の構造物を地中化した場合の新たな都市空間をシミュレーションすることも可能で、さまざまな応用の可能性が広がる。

今後は、国内の建設業界への3次元CADの普及を迅速に進めるために、本学発のベンチャー企業である株式会社関西総合情報研究所を通じて、2014年度からCADベンダーなどに対する販売を開始する予定。販売開始に先駆け、全国の約300の大学や高校、高等専門学校向けに、3次元CADエンジンを搭載した簡易3次元CADの無償提供も行う。

▼点群データによる地形上の道路の作成



▼3次元物体同士のブリーアン処理



第36回 総合関関戦 開催

熱戦繰り広げ、親睦深める



開会式の様子

関西大学体育会と関西学院大学体育会による伝統の交流戦「総合関関戦」が、6月13日～15日に開催された。

総合関関戦は両大学の体育会が良きライバルとして対戦し、親睦を深めることを目的に1978年から毎年開催。36回目を迎えた今年も、全体テーマ「PROVE ～ 敬意昇心を胸に～」の下、関西学院大学上ヶ原キャンパスを中心に熱戦が繰り広げられた。

総合成績は関西大学の13勝19敗3分けて関西学院大学の5年連続勝利。通算成績は関西大学の16勝19敗となった。

また、6月15日には、「第34回大島鎌吉記念健康マラソン大会」が同時に開催され、関西学院大学時計台前からスタートし、上ヶ原キャンパス周辺を巡って戻るコースを、両大学の学生・教職員等約300人が快走した。



5年ぶりに勝利した剣道部



10年連続で勝利したアイスホッケー部



10年連続で勝利した射撃部

写真提供：関大スポーツ編集局

写真提供：関大スポーツ編集局

◎ 初等部・中等部・高等部が「子どもの読書活動優秀実践校」として表彰 12年間の読書生活で知性と感性を育む



「平成25年度子どもの読書活動優秀実践校」として、関西大学初等部・中等部・高等部が選出され、4月23日の「子ども読書の日」に東京で行われた「子どもの読書活動推進フォーラム」において、表彰状が授与された。

この表彰は子どもの読書活動の推進において、特に優れた取り組みをしている学校等を文部科学大臣が表彰するもの。今年度は全国で高等学校34校、中学校29校、小学校70校、特別支援学校4校が表彰された。

初等部・中等部・高等部では、一貫教育の中で「読書生活をデザインする力」を育む読書教育を展開。12年間を見通したシラバス作成により各校種に応じた系統的な読書活動が可能になり、初等部では読書量の充実、中等部では読書の質の向上、高等部では読書生活のデザイン力向上を図っている。

また、それらの読書教育を支える施設として、ライブラリー(図書館)も充実。初等部ライブラリーは読書センターとしての「わくわく館」と学習センターとしての「はてな館」に分かれ、「わくわく館」には読みたい本を、「はてな館」には知りたいと思う本を配架。2012年度には両館合わせて年間5万冊を超える本



図書の授業風景(初等部)

を貸し出した。

中等部・高等部のライブラリーには、読書に慣れ、多読することに適している新書レベルから、主に高等部の生徒が卒業研究に使う専門書レベルまで各種そろっており、読むことである「読書活動」だけでなく、書くことである「言語活動」の育成にも寄与している。

RISS ソシオネットワーク戦略研究機構が 文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に継続認定

ソシオネットワーク戦略研究機構(英文名称Research Institute for Socionetwork Strategies 略称RISS)が、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」の継続認定を受けた。認定期間は2013年4月1日から2019年3月31日の6年間。

文部科学省「共同利用・共同研究拠点」は、個々の大学の枠を超えて、研究者が研究施設や資料・データなどを共同利用し、共同研究を行う体制を整備するもの。RISSは、2008年度から文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業(2010年度からは特色ある共同研究拠点の整備の推進事業)」に採択されたことを受けて、同年7月に本学の5

番目の附置研究機関として設置され、同年10月には私立大学初の「共同利用・共同研究拠点」の1つとして認定された。

RISSは高度な情報通信技術を活用したネットワーク戦略の総合的政策研究を行い、日本を含む世界が直面している社会的課題の解決のための学術的基盤を形成することを目的としている。

2013年3月31日まで、ウェブアンケートの駆使、データマイニングツールの活用、人工知能を用いたシミュレーションの実施で高い成果を達成し、今回、継続認定となった。今後も文部科学省の事後評価結果を踏まえ、共同利用・共同研究拠点として研究分野の発展に取り組んでいく。